第３・４学年

**国語科・総合的な学習の時間　学習指導案**

　　　　　　　　　　令和５年９月１９日（火）　第５校時

**１　今年度の情報モラル教育のテーマ**

○　９年間がつながりあう、系統性のある情報モラル教育

○　異学年交流で伝えあい、共に学びあう情報モラル教育

○　学校と家庭・地域がつながり、児童生徒を支えあう情報モラル教育

**２ 単元名**　　　 【第３学年】正しい情報を選ぼう　新聞を作ろう

【第４学年】事実を分かりやすくほうこくしよう　新聞を作ろう

**３　単元設定の理由**

○　児童観

（略）

○　教材観

　　【第３学年】

　　　「教育の情報化に関する手引き」（文部科学省）において、情報教育は、①情報活用の実践、②情報の科学的な理解、③情報社会に参画する態度の３つの観点で目標が整理されおり、情報モラル教育は、③情報社会に参画する態度の中に位置付けられている。また、「情報モラル指導モデルカリキュラム表」によると、情報モラル教育は、①情報社会の倫理、②法の理解と遵守、③安全への知恵、④情報セキュリティ、⑤公共的なネットワークの構築の５つの柱で指導内容が示されている。

　　　本単元では、情報モラル教育における③安全への知恵を扱い、インターネットに潜むリスクに気付き、情報を正しく安全に利用することに努めようとする態度を育むことをねらいとする。

新聞は、インタビューやインターネットなど様々な手法で情報が集められてつくられるものであり、調べ学習において、情報の集め方や利用上の注意などについても併せて指導していく必要がある。そのため、本単元の学習により、子どもたちに情報を正しく利用する力や適切な情報を見極める力を育むことができると考える。

　　【第４学年】

　　　　本単元では、新聞を友達と協力して作るという活動を通して、相手に分かりやすく伝えるにはどうしたらよいのかを考える力を育むことをねらいとしている。本単元で位置付けられている新聞には、「事実が分かりやすく書かれている」「文章と写真・図表が組み合わさって一つの記事が構成されている」という特徴がある。伝えたいことが明確になるような内容やグラフ、図表、見出しなど、相手に伝える工夫を考え判断することができる教材である。また、本単元は、インタビューやインターネットといった様々な方法を用いて取材をすることで、得た情報をどのように取捨選択するかについて考える力も育てることができると考える。そのため、情報モラル教育と大いに関連する教材であると捉える。

○　指導観

　　　本指導にあたっては、第３・４学年の合同授業とする。そして、教科等横断的な視点に立ち、国語科と総合的な学習の時間を関連付け、異学年のかかわりを大切にしながら指導を進めていく。

　　　まず、教科等横断的な視点を取り入れる理由は、第３学年の総合的な学習の時間の内容と、第４学年の国語科の内容で重なる部分に着目し、お互いに関わりながら授業を行うことで双方の学習がより深まると考えたため、クロスポイントを異教科合同で実施することとした。

　　　次に、異学年が交流し学び合う場を設定した理由は、以下の２点である。

　　　１点目は、記事の書き方や引用の仕方、出典の示し方など、学習の中で困っている３年生に対して、４年生がリーダーシップを発揮し、これまでに学習したことを活かしてアドバイスをすることを通して、アウトプットによる、知識の定着が期待できるからである。そのため、指導上の配慮として、教師が意図的に学年をまたいだ班を編制し、役割を明確にさせた上で言語活動に取り組むようにする。

　　　２点目は、第３・４学年が合同で学習することで、新たな集団の中で様々な価値観にふれ、一人ひとりの感じ方等には違いがあることに気付くとともに、他者の感じ方等のよさにも気付くきっかけとなることが期待できるからである。

**４　単元目標**

【第３学年】

　　　新聞を協働で作るという活動を通して、インターネット等のメディアの特性を理解するとともに、ネット上の情報はすべてが正しいというわけではないことに気付き、間違った情報や不適切なコンテンツに惑わされることがないように、学習したことを生かそうとする意欲を高める。

【第４学年】

◎　相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思考力・判断力・表現力等Ｂ（１）ア）

　◎　書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思考力・判断力・表現力等Ｂ（１）イ）

　○　比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知識及び技能（２）イ）

　○　間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思考力・判断力・表現力等Ｂ（１）イ）

**５　単元計画**

【第３学年】（総時数６時間）※新聞を作る活動は、国語科で実施

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | □ねらい | 〇ねらいを達成・確認するための活動や手立て、留意点 |
| １ | □　学習旅行で訪れる地域に関する人物や施設について考え、身近な地域についての新聞をつくるという課題について理解することができる。 | ○　実際の新聞を提示することで、新聞の特徴を具体的に捉えることができるようにする。 |
| ２ | □　学習旅行での情報収集に向けて、班で役割分担等の計画を立てることができる。 | ○　学習旅行に関しての説明を行い、新聞のテーマを確認する。  ○　学習の流れを示して計画表を作ることで、学習の見通しをもつことができるようにする。 |
| ３ | □　学習旅行に行き、計画に基づいて取材することができる。 | ○　取材カードを用意することで、集めた情報を正確に残し、比較したり分類したりすることができるようにする。 |
| ４ | □　学習旅行で集めた情報を整理し、班で共有することができる。 | ○　思考ツールを用いることで、集めた情報を見えやすい形で整理することができるようにする。 |
| ５  （本時）  ・  ６ | □　様々な情報の中には誤ったものもあるということに気付き、情報を適切に取捨選択することができる。 | ○　教師が意図的に学年をまたいだ班を編制することで、より多様な考えにふれることができるようにする。  ○　教師の用意した資料を提示することで、すべての情報が正しいとは限らないということに気付くことができるようにする。 |

【第４学年】（総時数１２時間）

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | □ねらい | 〇ねらいを達成・確認するための活動や手立て、留意点 |
| １ | □　新聞の特徴を理解し、単元の見通しをもつことができるようにする。 | ○　実際の新聞を提示することで、新聞の特徴を具体的に捉えることができるようにする。 |
| ２ | □　新聞のテーマを確認し、新聞作成の計画を立てることができる。 | ○　学習旅行に関しての説明を行い、新聞のテーマを確認する。  ○　学習の流れを示して計画表を作ることで、学習の見通しをもつことができるようにする。 |
| ３ | □　学習旅行に行き、計画に基づいて取材することができる。 | ○　取材カードを用意することで、集めた情報を正確に残し、比較したり分類したりすることができるようにする。 |
| ４ | □　学習旅行で収集した情報を整理し、さらに調べたいことを決め、次時の見通しをもつことができる。 | ○　思考ツールを用いることで、集めた情報を見えやすい形で整理することができるようにする。 |
| ５  （本時）  ・  ６ | □　様々な情報に対して、その情報が正しいかどうかを根拠を明確に示しながらまとめることができる。 | ○　異学年交流を通して、自分の意見や考えを根拠をもって、他者に伝えることができる。  ○　教師が用意した資料を提示することで、引用の大切さに気付くことができるようにする。 |
| ７ | □　グループで割付について話し合い、記事の大きさや場所を決めることができる。 | ○　最も伝えたい記事を決めるのが難しいグループがいた場合、ほかのグループに記事を読んでもらい、読者として読みたいものなど、客観的な視点からの助言をもらう場をつくる。 |
| ８  ・  ９ | □　相手や目的を意識して、記事の下書きを書くことができる。 | ○　教科書ｐ９４の新聞例を基に、記事の書き方を話し合うことで、具体的に理解することができるようにする。 |
| １０  ・  １１ | □　グループで下書きを読み合い間違いを直したりして、文章をよりよくして推敲することができる。 | ○　下書きを読み合うときに気を付けることについて、具体例を出しながら話し合う。  ○　チェック表を用いることで、正確に表記と内容について確かめ合うことができるようにする。 |
| １２ | □　新聞を読んで、相手や自分たちの書いた新聞のよいところを見つけることができる。 | ○　完成した新聞を読み合い、よいところを伝え合うことで、書いてよかったという達成感をもつことができるようにする。 |

**６ 本時のねらい**

【第３学年】

　　様々な情報の中には誤ったものもあるということに気付き、情報を適切に取捨選択することができる。

【第４学年】

　　複数の情報の比較や引用の仕方について理解し、使うことができる。

**７ 授業の構想**

【第３学年】

（１）　教師が意図的に学年をまたいだ班を編制することで、より多様な考えにふれることができるようにする。（手立て１）

　（２）　資料を提示することで、インターネット上に公開されている情報はすべてが正しいとは限らないことに気付くことができるようにする。（手立て２）**※情報モラルに関わる内容**

【第４学年】

（１）　異学年交流を通して、自分の意見や考えを根拠をもって、他者に伝えることができる。

（手立て１）

　（２）　資料を提示することで、出典や引用の大切さに気付くことができる。

（手立て２）**※情報モラルに関わる内容**